

トラスト3号地（嵐山町）

ウィズカシナガの時代が来た



新型コロナもカシナガも高齢者（高齢木）が被害を受けやすく致命的になりやすい。

新型コロナの撲滅はどうにも無理なようである。人間とウィルスの共存関係が成立して徐々に毒性が弱まると予想されていたが、現在集団免疫がほぼ出来上がりその通りになっている。カシナガに関してもすでに蔓延している地域では、多くの木が被害にあうことで事態が収束しているようだが、若い木が成長した頃に再発することもあると聞く。

トラスト12号地では2020年に穿入被害を受けた81本全てを伐採し、チップ化してパルプ原料とした。切り株は薬品燻蒸後シートで被覆した。しかし、翌年67本に穿入が確認された。



2022年は236本、2023年も274本に穿入が確認され、もはや健全なコナラは極めて少なくなっている。

2023年の枯死（枝枯れ含む）率は23%程度だが、5月12日に園路沿いの被害木が突然倒れた。この木は2021年に穿入孔からの樹液を確認し、2022年

は多少フラスが出ている程度で、2023年も新緑が出ており経過観察中であった。株を掘り起こすと根が極めて少なかった。その後、11月初旬に、もう1本突然倒れた。これも2021年に穿入され経過観察中で、葉も緑色で問題ないと思っていた。このようにカシナガ被害木は枯れていなくても倒れるおそれがあるため、園路沿いの被害木は早めに伐採した方がよいと思われる。

2022年は伐採した木を30cmに切って乾燥させ、カシナガが餌として運び込んだ酵母菌の繁殖を防ぎ、カシナガを兵糧攻めにする事とした。併せて森林総研と寄居林業事務所との共同研究でカシナガの駆除調査を行った。幹を1m、30cm、15cmに切ってネットで覆い、羽化するカシナガ数を調べたところ、1m³あたりの換算値で、1mに比べ30cmでは83%減、15cmでは99%減となった。

12号地では被害木を伐採した跡地を、カシナガの被害を受けにくい雑木林にするため、実生で育っている若木のうちエノキ、ムクノキ、ネムノキ、シデ類を残して復元を進めている。

残念ながら、これまでのトラスト保全活動ではカシナガ対策には十分とは言えないようだ。昔、行われていたように15～20年ごとに皆伐して更新しなければ、真の意味で雑木林保全活動にならないことを痛感している。

（公財）さいたま緑のトラスト協会

理事 小峯 昇

（埼玉県絶滅危惧動物種調査団 副代表）

イベントのお知らせ

2 トラスト 狭山湖とトラスト樹林地の冬鳥観察会

2月17日(土) 9時30分～14時30分
(雨天中止)

集合場所 西武狭山線西武球場前駅 9:20

持参 昼食、敷物など

協会員 無料 一般 300円

30人先着順 締切2月13日(火)

狭山湖とトラスト保全地で冬の野鳥観察を開催。

申込 トラスト協会事務局まで Web 又はお電話



【対象】

中学生以上。小学生以下の参加は保護者が同伴してください。

【持ち物・服装】

<共通> 筆記用具、水筒、長袖、長ズボン、活動しやすい服装・靴でご参加ください。

<冬鳥観察会> 双眼鏡などの観察用具、雨具、帽子

<コマ打ち体験> 軍手、作業靴、帽子

3 トラスト トラスト地散策とシタケのコマ打ちを楽しもう

3月2日(土) 10時～14時

作ったシタケの原木はお一人様1本お持ち帰りいただけます。

集合場所 下記の2つから選択

①東武東上線武蔵嵐山駅改札口 9:00

②JA埼玉中央嵐山農産物直売所 9:15

持参 昼食、敷物など

協会員 600円 一般 800円

30人(抽選) 2月13日(火)消印有効

申込 往復はがきに①代表者名 ②グループ全員の名前(学年) ③住所 ④電話番号 ⑤会員/一般の別 ⑥集合場所を明記し、協会まで送付。申込締切後抽選の上、返信はがきにてご案内いたします。



各イベント等の詳しい説明は、ホームページをご覧ください。

申し込みはこちら



第24回 さいたま緑のトラスト 写真・動画コンクール入賞作品展

2月7日(水)～2月14日(水) 8時30分～17時 (ただし、初日は14:30から、最終日は12:00まで)

場所 大宮第二公園 公園ギャラリー さいたま市大宮区寿能町2-405 ☎048-642-2228 参加費 無料

ご報告

令和5年度 会員の集い (公開講座)



11月11日(土)、令和5年度ボランティアセミナー修了式を兼ねた「会員の集い」が埼玉会館で開催。会員、ボランティアスタッフ約40名の方々にご参加いただきました。今年度は11名の研修生が全課程を受講し、太田理事長より修了証書を授与されました。

公開講座 当協会の太田理事長から「持続可能な社会での森の役割」と題して、生物多様性保全を加速させる「昆明・モンリオール枠組」、生物多様性国家戦略など広範な内容の講話をくださいました。また、牧野副理事長は「県内の外来植物の実態」、13号地安田代表は「SDGsと保全地活動」というテーマで、非常に参考になる講義をお話していただきました。

交流会 当日はコロナ禍で中断しておりました「交流会」が、軽食を交えて4年ぶりに開催されました。日頃お会いできないメンバーとの情報交換が活発におこなわれました。



さいたま緑のトラスト基金への大口寄附者
(10万円以上、令和5年9月から11月)

矢部 達哉
株式会社 システムアドバンス
マテリアルエード株式会社
株式会社 ジアス
新城鉄骨工業株式会社
サイエンス株式会社
株式会社 昭和技研工業
埼玉県倫理法人会
関口工業グループ一同
中島 由雅
株式会社 アタル開発
依田 俊也
株式会社 東建ジオテック
株式会社 青木精機
日興サービス株式会社
税理士法人 大久保会計

株式会社 ビクトリー
株式会社 コーエイサービス
株式会社 コーエイクリーン
日本畜産興業株式会社
株式会社 新光工業
株式会社 内山商事
株式会社 ベルエアランド
新和環境株式会社
株式会社 ビックルスコーポレーション
株式会社 シタラ興産
ベクトル株式会社
株式会社 マルシン
一般社団法人 埼玉県馬主会
他匿名希望1個人、4法人
[敬称略]



さいたま緑のトラスト協会への大口寄附者
(5万円以上、令和5年9月から11月)

匿名希望1個人

[敬称略]



新しく会員になられた方々
(令和5年9月から11月)

【個人】6人 (うち永年1人)

[敬称略]

【家族】3家族 (9人)

[敬称略]

【法人】

パシフィックシステム株式会社
ケミコステクノ株式会社

[敬称略]

<会員数 (11月末現在)> 1,384人・団体



飯能河原周辺河岸緑地とスラックライン



4号地でスラックラインを始めたのは忘れもしない、…いつだったか、出納帳を見たところ2010年でした(忘れとるやないの)。アウトドア誌に欧米でスラックラインという林中で遊べる綱渡りスポーツが紹介されて、即ネットで購入したのです。

当時スタッフで誰もスラックラインに乗れる人はいません。スキーストックを持ち出して、ストックに掴まりながら綱渡りをするという正に石器時代のような遊び方をしていました。

SNSは素晴らしいもので、県民で旅行作家の田中真知さんがスラックラインで遊んでいるのを見て、飯能で遊べますよ、ついでに講師をしてくださいとお願いとするとOK。コロナ禍の中、しばらく講師をお願いしました(感謝)。

2023年春に、妻から飯能にスラックライン元世界チャンピオンが越してきたと聞いて連絡したのが、合同会社ふすふす代表・早坂航太さんです。次の講師を早速お願いしました。4月のスラックラインイベントをお楽しみに。

4号地ボランティア
代表 大石 章 (協会理事)

トラスト 昆虫 16

チョウ目ジミチョウ科

ムラサキツバメ (Narathura bazalus)



ツツミ 塘 久夫
5号地ボランティアスタッフ。小さい時から昆虫好きで野山を駆け回っていました。今は小さい子供たちと一緒にトラスト地で昆虫を追いかかっています。

かつてこのチョウの生息地は九州や四国以南だけでした。ところが2000年頃から埼玉県でも県南部を中心にポツポツと目撃記録が開始、その後急速に分布を拡大し、今や全県で普通に見られるチョウになっています。なぜ暖かい地方を原産とするチョウが関東でも普通に見られるようになったのか、原因はハッキリしませんが、地球温暖化や食樹のマテバシを街路樹や境界木として人為的に植栽したことなどが要因だろうと言われています。

ハネの色はメスは鮮やかな紫色、オスは濃い黒紫色です。よく似た種のムラサキジミには尾がありませんが、ムラサキツバメには尾状突起があり、この尾っぽがツバメ(燕)の名前の由来となっています。

6月頃から姿を見えますが、秋が深まる10月頃から数が増え始め初冬になるまで活発に飛び回ります。真冬にはそのまま成虫で越冬態勢に入りますが、越冬初期には多数のムラサキツバメが寄り集まって集団をつくる習性があります。宮代町のトラスト保全地でも、シラカシやヒサカキなど常緑樹の茂みで集団越冬しているこのチョウを見かけることがあります。ところが寒さが厳しくなる1月下旬頃には集団は解散しバラバラになってしまいます。不思議な行動ですね。(塘 久夫)



ムラサキツバメ (メス)



集団越冬態勢の成虫群

令和5年度 緑のボランティアセミナー

日時：9月2日(土)～11月11日(土) 全6回
会場：トラスト保全地含む県内各地
修了生：11名

緑のトラスト運動に必要な知識と技術を習得するためのセミナーを開催し、座学・野外の実技を受講いただきました。
修了された方々は、各号地のボランティアスタッフとして活動されます。

研修を終えて

修了生 齊藤 範之

50数年振りに郷里に戻り住み、幼少年時代を過ごした場所の周りは住宅地と化し、良く遊んでいた雑木林や湧き水の出た小池も無くなっていて、とても残念で寂しい思いを感じていました。

そんな中、トラスト協会の存在を知り、以前より森林や草花に関心があり、研修会に参加することにいたしました。

講義・実技の内容は幅広く、自然保護活動の在り方から救急処置方法等々、各課題に関する事柄について現状に即して具体的に学べ、NEAL（自然体験活動指導者）の活動も知ることが出来ました。トラスト地の存在を知ったこの機会、全号地を散策してみました。初めての所ばかりで、各号地ごと、その土地の雰囲気、地形、自然環境の違いには驚きました。この貴重な自然環境を守るには、一人でも多くの人に関心を持って頂く事だと思います。



観察指導

将来の担い手となる孫たちを連れ出して、これからどんぐりを拾いに雑木林に出かけます。ありがとうございました。

セミナーを通して

修了生 菅原 美己子

セミナーは実際のトラスト号地での実技も多く、里山の自然に触れながら、保全地の成り立ち、保全活動のこと、植物の名前や生態系の変化などを知ることができました。また、外来生物や植物の及ぼす環境の変化、実際の間伐体験、応急処置、安全管理、自然体験活動の意義（これからの子どもたちに大切なこと）など、どの講義内容も専門的で期待を遥かに超える興味深いものばかりでした。

そして何より講師の方々から直接話を伺い、同じ志を持つセミナー参加者との交流ができたことにより、書物などでは得られないとても有意義な学びの時間となりました。

これから実際のボランティア活動が始まりますが、その心構えができ、セミナーを通して学んだことを生かしていきたいと思っています。

ありがとうございました。



伐採実技

自然に親しむ会の開催

秋の自然観察会

10月7日(土)、トラスト保全2号地(所沢市)から狭山湖に至る7kmのコースを歩く自然観察会が行われました。参加者は15名。2号地のボランティアスタッフ手作りの植物観察チェックシートを使って、快適で楽しいウォーキングでした。



綾瀬川周辺の冬鳥をさがそう

11月26日(日)、トラスト保全7号地(さいたま市岩槻区)小川原家屋敷林をスタート、綾瀬川周辺から深作遊水地にかけて冬鳥の観察会を行いました。

参加者は16名。チェックシートを使っての周遊ですが、直接観察できたもの、鳴き声だけのものを合わせて28種類の冬鳥が確認できました。



法人会員様と協会ボランティア合同の保全活動を実施

日時：令和5年10月21日(土)
いなげや様 場所：トラスト保全1、2、13号地
(さいたま市緑区、所沢市、伊奈町)

今年度の教育プログラムの一環として、新入社員の方々が入った3つの号地エリアに分かれての同時開催で、各地ボランティアスタッフとの合同保全活動が実施されました。竹の間伐・下草刈り・薪割りなどの作業と自然観察を体験されました。



日時：令和5年11月19日(日)
パシフィックシステム様 場所：トラスト保全8号地
(北本市)

社員様による保全活動がボランティアスタッフ協力のもと、伸びた蔓の除去や下草刈り、間伐材の薪割りなどの作業が行われました。また、参加されたご家族やお子様たちは「湧水地」を含む自然観察を楽しまれました。



公益財団法人 さいたま緑のトラスト協会
〒330-0063 さいたま市浦和区高砂3-12-9 埼玉県農林会館内
電話 ▶ 048(824)3661 ファックス ▶ 048(832)0292
ホームページ ▶ <http://www.saitama-greenerytrust.com>
メール ▶ main@saitama-greenerytrust.com
当協会に御寄附をいただいた方については、税額控除の特例を受けられます。
詳しくはHP又は事務局へお尋ねください。

●会費年額

個人	大人	1人	1,500円
	小・中・高校生	1人	1,000円
	永年(一括納入)	1人	15,000円
家族		1家族	3,000円
法人		1口	10,000円



トラスト運動に御支援いただきありがとうございます。